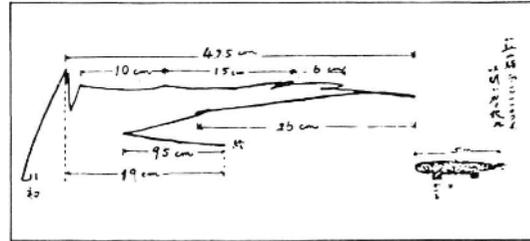




⑬

北伊豆地震の
地震動の擦痕
(伊豆長岡町)



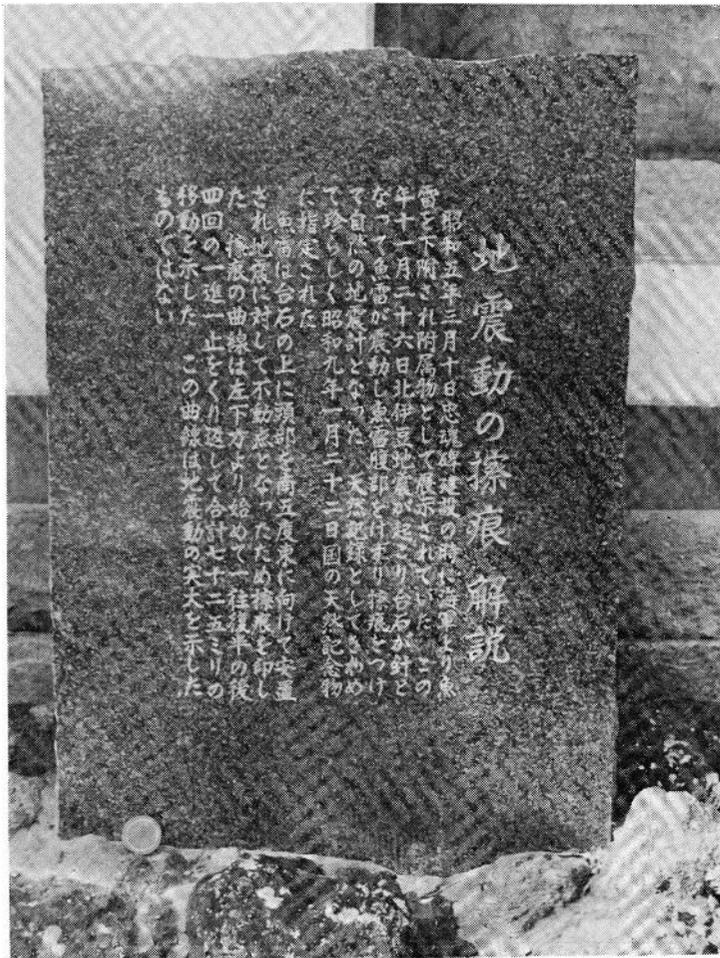
魚形水雷の表面に残された擦痕(今村, 1931)

昭和5年11月26日北伊豆地震で、展示されていた魚雷に地盤の振動が偶然記録され、魚雷があたかも地震計のような役割をはたしました。大変めずらしいというので天然記念物として保存されています。国土地理院2.5万分の1の地形図(韭山)にも明示されています。

私は地層に刻まれた断層の擦痕かと大いに期待して出かけました。近くに立派なカンパンもあってすぐにわかりました。岩石や地層ではなく魚雷でした。コンクリート作りの小屋の中に魚雷はおさまっています。

た。ところがいたるところにイタズラの擦痕があつて、どれが地震のときの擦痕かいくら眺めてもわかりません。通りがかった地元のおじさんに「地震擦痕はどれですか」とたずねました。「お安いご用」と私につきあってくれました。「昔はよく見えたんだが魚雷の頭に近いところにあつたのですよ。でも、今は私にもよくわからんね」と気のどくがってくれました。

東大地震研の報告書に今村明恒先生(1931)がこの



魚雷擦痕のことを記載しておりまず(図参照)。この地震で、地面はまず上下にグイと動き続いて4~5回のステップで42.5cmも水平移動し、30cm程元にもどり、再び9.5cm逆方向に移動しています。見学に行った人はこのような意味深い天然記念物を「やさしくなでる」気持で大切にし、傷などつけないでほしいと思いました(大木靖衛)。

参考文献

- 今村明恒(1931), 北伊豆大地震の計測学的研究, 地震研究所彙報, Vol. 9, 36-49.
- 今村明恒(1931), 北伊豆大地震の計測学的研究, 地震, Vol. 3, 1-38.